

Q10-1.台湾における「新規株式公開」について教えてください。

新規株式公開はIPO(Initial Public Offering)と称され、創業者やその家族など少数の株主のみが株式を保有し株式が自由に売買できない状態から、市場を通して不特定多数の投資家が売買に参加できるようにするために、市場に株式を供給し、市場を通して不特定多数の投資家が売買に参加できるようにすることをいいます。

台湾では、本社所在国で株式公開していない外国企業が、台湾内に子会社などの拠点を持つことなく、直接台湾市場で株式の新規公開を行うことが可能です。

台湾の証券市場には、下記の2種類があります。

1. 台湾証券取引所(TWSE: Taiwan Stock Exchange)
2. 証券店頭売買センター(TPEX: Taipei Exchange)

証券取引所(TWSE)と証券店頭売買センター(TPEX)とでは審査基準が異なります。証券店頭売買センター(TPEX)は最低資本金や収益力の基準が相対的に低いため、主に比較的小規模な企業が株式公開しています。よって、時価総額や売買代金が証券取引所(TWSE)の数十分の一程度となっています。

上場または店頭公開に先立ち、証券店頭売買センター(TPEX)が運営する新興株式市場(Emerging Stock Board)への6か月間の登録、または幹事証券会社による6か月間の指導必要とされます。幹事証券会社による指導においては、内部統制の構築、上場または公開に問題となる事項の解消、申請資料作成の補助、ガバナンス体制整備などについてサポートを得ることになります。新興株式市場では、事業継続年数や収益力の数値基準は要求されず、証券会社2社の推薦さえ得られれば登録が可能です。新興株式市場では、上場・店頭公開前に証券会社において相対での協議価格で売買されます。

なお、2014年1月には、証券店頭売買センター(TPEX)がベンチャー企業向けの新しい市場である「創櫃版」を創設しました。これは上記の新興株式市場よりもさらに小さなスタートアップ企業を対象としており、事業継続年数や収益力の数値基準は要求されず、証券店頭売買センター(TPEX)の審査により「創造性」と「潜在力」が認められれば登録が可能になります。

新興株式市場、創櫃版ともに直接金融の場というよりは、会社情報の開示の整備体制を整える練習の場としての市場であり、上場・店頭公開時の価格決定の参考にするための試験的市場です。

台湾証券取引所(TWSE)、証券店頭売買センター(TPEX)の上場会社数、新規上場数および時価総額を東京証券取引所(JPX)と比較すると以下の通りです。

		2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
上場会社数 (社)	TWSE	896	911	924	945	956
	TPEX	712	732	744	766	775
	JPX	3,513	3,541	3,604	3,657	3,708
新規上場数 (社)	TWSE	18	21	21	29	15
	TPEX	34	36	21	31	20
	JPX	110	96	104	115	98

時価総額 (百万 US \$)	TWSE	744,999	844,030	1,073,080	959,219	1,217,273
	TPEX	83,027	84,335	111,820	92,477	114,780
	JPX	4,894,919	4,955,299	6,222,834	5,296,811	6,191,073

出典: World Federation of Exchanges